

あくせす news

第 222 号
2020年12月14日
発行者
呉市医師会病院
地域医療福祉連携室
あくせす



今年新型コロナウイルスの流行により、外出時にはマスクの着用が常識になるなど、世の中が大きく変わった1年でした。医療の現場でも未だ混乱が続いていますが、新薬やワクチン開発などに期待をしつつ、当院も引き続き感染対策に努めてまいります。さて、本年も先生方にはあくせすをご利用いただき、誠にありがとうございました。来年も一層のご紹介をいただきますよう、よろしくお願いいたします。



呉排便ケアセミナーZoom講演会

報告

11月19日(木)、当院の藤森正彦医師(大腸肛門病センター副センター長)と岡野純子(皮膚・排泄ケア認定看護師)が講師となり、マイランEPD合同会社の主催で「呉排便ケアセミナーZoom講演会」を開催しました。セミナーには医師やメディカルスタッフをはじめ、介護に携わるスタッフなど、実際に排便管理に携わる方々が参加されました。



慣れないオンライン配信に苦戦しながら、藤森医師からは排便管理を中心に、慢性便秘の病態・診断・治療及び最新の知見について、また岡野看護師からは便秘の種類によるケアの方法の違いについて紹介しました。また、質疑応答では、医療介護の現場で実際に困っている事例の相談をいただき、いくつか改善策を提案させていただきました。

排便の悩みや不安は患者さんによって様々なため、1人ひとりの状態に合わせたケアが必要です。今後も医療介護の現場に活かせる話や悩みに対してアドバイスができる機会を設け、患者さんにより良い排便ケアの提供ができるよう支援してまいります。



大腸肛門病センター副センター長
藤森 正彦



皮膚・排泄ケア認定看護師
岡野 純子



HMネットのTV会議システム

紹介

HMネットでは患者さんの情報共有だけでなく、TV会議システムも使用できます。セキュリティの高いネットワーク配下で、多職種間の退院前カンファレンスや病院間、病院・診療所間での小会議等に利用することができます。



Merit メリット

- ★退院前カンファレンスのオンラインツールとして活用
→退院時共同指導料 I (1,500 点または 900 点) が算定できる
- ★セキュリティが高いから安心
- ★院内にいながら会議に参加できる
→移動時間・費用の削減!
- ★会議資料を会議中に共有できる
(PC上の映像・音声付き資料・HMネット上の情報を含む)
- ★音声トラブルが起きても、テキストチャットで会話に参加できる

利用するには?



- ★双方がHMネットに参加している
- ★マイクスピーカーやウェブカメラが必要(内蔵されているPCならそのまま利用可)

システムの説明&試用に伺います!

TV会議システムの詳細や使用方法などの説明をご希望の場合、当院の森下(MSW)と県医師会のHMネット担当者が訪問し、直接説明することができます。既に伺った先生にもご好評をいただきました。また、ご希望がありましたらTV会議システムの試用もできますので、お気軽にご連絡ください。

【お問合せ先】あくせす(森下) ☎32-7576



「小腸の内視鏡検査について」

呉市医師会病院 内科主任医長 大谷 一郎



本邦における小腸内視鏡は、小腸カプセル内視鏡とダブルバルーン内視鏡の2種類が一般的である。カプセル内視鏡は侵襲が少なく外来での検査も可能で、スクリーニング検査として有用だが、停留のリスクがあり、検査前に開通性の評価は必要で、偽陰性の可能性もある。また、病変があっても当然ながら生検や処置は行えない。なお、カプセル内視鏡の保険適用については当初小腸出血疑いに限られていたが、2012年からは全小腸疾患に対して施行可能となっている。ダブルバルーン内視鏡は見落としのリスクも少なく、一部の治療を行うこともできるが、侵襲が強く、一般的には入院下での検査となり、施行できる症例は限られる。

以上の特徴から、小腸病変を疑った際にはまず小腸の開通性を評価し、小腸内に明らかなカプセル内視鏡が停滞するようなリスクがなければカプセル内視鏡を行い、そこで病変が疑われた場合にはダブルバルーン内視鏡で精査を行うのが一般的である。また、小腸の開通性が担保できない場合に、他のモダリティで精査困難であれば、カプセル内視鏡をはさまず、ダブルバルーン内視鏡をファーストで行うこともある。

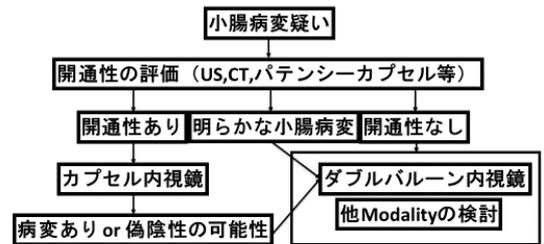
小腸疾患の症状は腹痛や下痢、出血/貧血といった非特異的なものが多く、実臨床においてはこれらの症状が慢性的に続き、かつ各種検査で原因不明という時に小腸内視鏡検査が行われることが多い。各症状における小腸疾患の有病率には種々の報告があるが、体重減少や炎症反応上昇を伴う慢性腹痛、血便や低アルブミン血症を伴う慢性下痢、60歳以上、肝疾患既往や抗凝固薬内服中の原因不明の消化管出血では小腸病変の可能性が比較的高いという報告がある。

また、近年ではAIによるカプセル内視鏡読影補助の研究が進んでおり、今後読影速度の短縮や偽陰性リスクの低下が期待されている。

小括(1)

	カプセル内視鏡	ダブルバルーン内視鏡
前処置	前日の下剤のみ 場合によっては絶食のみ	上下部内視鏡と同様
施行場所	外来でも可能	基本的には入院
偶発症	停留	出血、穿孔 経口的に行う際には誤嚥性肺炎や肺炎
利点	低侵襲	見落としが少ない 止血、ポリペクミーなど処置も可能
欠点	開通性の評価が必要 見落としのリスクあり 処置はできない	侵襲が強い 全小腸観察のためには 2回施行する必要がある事が多い
使用する場面	スクリーニング	精査/加療

フローチャート



小括(2)

慢性的な原因不明の消化管症状は小腸疾患の可能性がある
特に

- ① 体重減少や炎症反応上昇を伴う慢性腹痛
- ② 血便や低アルブミン血症を伴う慢性下痢
- ③ 60歳以上、肝疾患既往や抗凝固薬内服中のOGIB



小腸病変の可能性が比較的高く、小腸検査を検討しうる

大谷医師の外来診察日は毎週水曜日の午前中です。

※当院では小腸内視鏡検査は行っておりません。

次回の関係医師懇談会は1月を予定
しています。WEB配信もありますので
お気軽にご参加ください。

★11月1日～11月30日★

※届出日数(地域包括ケア病棟、障害者病棟等を除く)

平均入院患者数	平均病床利用率	平均在院日数※	紹介外来患者数	医療相談患者数
102.9人	52.0%	16.1日	85人	90人

呉市医師会病院 地域医療福祉連携室 **あくせす**

<http://www.kure.hiroshima.med.or.jp/hp/>

電話 (0823) 32-7576 (直通) 院長 中塚 博文 室長 中間 千穂 事務 中野 浩美 事務 石坂 梨恵
FAX (0823) 32-7507 MSW 森下 香織 MSW 萩山 直子 MSW 菅原 淳子 MSW 巻幡 成実

